

「これからの時代におけるユネスコ活動の推進等について」

今後の検討に向けた論点整理

令和 4 年 1 1 月 2 9 日
 日本ユネスコ国内委員会
 運 営 小 委 員 会

(新しい時代におけるユネスコの理念と役割)

国際情勢の変化を踏まえたユネスコの理念の再認識と役割の再検討

○昨今のウクライナやアフガニスタンにおける戦争や紛争、新型コロナウイルス感染症の拡大による人と人とのつながり方の変容、地球温暖化による自然災害の深刻化等の状況変化を踏まえ、教育・科学・文化を通じて平和や持続可能な社会の構築に貢献するユネスコの理念を再認識するとともに、これからの時代にユネスコに求められる役割を再検討する。

(時代に即したユネスコ活動の方向性)

① 新しい価値やルールの提案と議論の牽引とともに日本の積極的・効果的な貢献

- 現在の国際情勢の変化を踏まえて、ユネスコの理念を実現していくため、日本から積極的に新しい価値やルールなどを提案し、ユネスコの議論を牽引する。(例：健康、食糧、エネルギー等)
- また、ESD の取組や海洋、防災などの各分野をはじめとして、ユネスコ及び加盟国に対して、日本からユネスコ活動の好事例を発信・共有し、より積極的・効果的な貢献を行う。
- 次世代国内ユネスコ委員会を含め、未来を担う若者の声をユネスコ活動に効果的に反映させることで、活動の活性化や若者世代への広がりを目指す。
- ユネスコ事務局における日本人職員の活躍の機会、ユネスコの各種政府間理事会や

専門委員会等における日本人のプレゼンス向上を検討する。また、ユネスコの場においても、ユネスコが「優先グループ」として位置付ける若者の声が一層重視されていることを踏まえ、若者の参加機会のある国際会議等に、日本の若者を積極的に派遣する。

② 多様な主体によるグローバル及びローカルなネットワークの重層化等を通じた地域の活性化

- より多様な主体・年代がユネスコ活動に関わることで活動内容を充実させていくため、産業界との連携強化や次世代ユネスコ国内委員会の活動の充実を進める。
- 国内外のネットワークの強化や地域の活性化に貢献するため、ユネスコの理念の下で、活動主体や分野を超えて連携を進めるユネスコ事業の登録地域の取組など、優良事例の収集・展開を行う。
- より多くの若者がユネスコでの経験（インターンシップを含む）を得ることにより、ユネスコとのネットワーク強化や帰国後の日本各地のユネスコ活動の活性化を図るため、地方自治体、企業、大学等と連携したユネスコや関連機関への派遣機会の拡充を検討する。
- ユネスコ活動をより効果的に実施していくために、近年活発化している企業の様々な SDGs 活動と、長年取り組まれてきた地域のユネスコ活動との連携強化を図り、それぞれが持つノウハウやネットワーク等を生かしたユネスコ活動を推進する。

③ ユネスコ活動に関する広報・普及戦略の強化・発信の支援

- ユネスコ未来共創プラットフォームを活用しながら、わかりやすさを重視した広報・普及戦略を検討する。また、ユネスコスクールの活用をはじめ、若者世代も巻き込みながら、広報・普及のターゲットの絞り込み（分野、地域、年代等）や各種メディアの活用を進めることなどを通じて、日本のユネスコ活動及び日本の貢献を国内外に効果的にアピールする。